

《履修上の留意事項》対面形式で実施する場合には、十分な感染症対策を行うために1教室あたりの受講者数を制限をする場合がある。
状況により、講義の全部または一部を遠隔形式で実施する場合もあるが、その際には別途連絡する。

《担当者名》安部博史（心）

【概要】

心理学とは人間の行動や心的過程を科学的に探求する学問である。対象とする領域は非常に広く、基礎分野から応用分野まで多岐にわたる。本講義では、心理学に関する広範な領域の中から代表的なテーマを取り上げ概説することによって、心理学の基本的発想を学ぶと共に心理学がどのように我々の生活と結びついているかを理解する。また、医療の中で心理学が果たす役割について理解する。

【学修目標】

- ・心理学の歴史、行動の生理的基礎、生物学的基礎、学習、動機づけ、欲求不満とストレス、感情、知覚、記憶、パーソナリティ
- ・臨床心理学、思考と言語など、代表的なトピックにおける基本的事項について理解し説明する。
- ・目に見えないところを科学的に研究するための方法について、理解し身につけ説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	導入	心理学とは何か理解し、説明できる。 心理学とはなにか 心理学についての誤解 心理学の方法	安部博史
2	心理学の歴史	心理学の歴史について基本的事項を理解し説明できる。	安部博史
3	行動の生理的基礎	脳・神経系の構造とその働き、様々な生理的指標について基本的事項を理解し説明できる。	安部博史
4	行動の生物学的基礎	生得的行動と初期経験について、基本的事項を理解し説明できる。	安部博史
5	学習	多くの生物種に共通の単純な学習や、古典的条件づけ、道具的条件づけについて基本的事項を理解し説明できる。 強化、消去、般化、分化、自発的回復 強化スケジュール	安部博史
6	学習	より高次な学習である観察学習、洞察学習、知覚運動学習について基本的事項を理解し、説明できる。 運動学習、社会的学習、行動理論	安部博史
7	動機づけ	基本的動機、派生的動機について、基本的事項を理解し説明できる。 動因・誘因と行動、葛藤	安部博史
8	ストレス	欲求・欲求不満とストレスと、ストレスが及ぼす影響、ストレスへの対処について基本的事項を理解し説明できる。	安部博史
9	感情	さまざまな感情と、感情の理論、感情が行動に及ぼす影響について、基本的事項を理解し、説明できる。 表情と情動の種類、情動の機能 情動の発達	安部博史
10	知覚	知覚と物理的世界の関係、主体的要因が知覚に及ぼ	安部博史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ず影響について、基本的事項を理解し、説明できる。 感覚と知覚の基本法則、感覚の種類、 ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、 スティーブンスの法則、視覚、聴覚	
11	記憶と忘却	記憶と忘却について、基本的事項を理解し、説明できる。 短期記憶、長期記憶、 記憶の忘却、干渉、変容	安部博史
12	思考と言語	問題解決と思考、言語と認知について、基本的事項を理解し説明できる。 言語、非言語的コミュニケーション 言語の特性と障がい 思考、問題解決 意思決定、ヒューリスティックとバイアス	安部博史
13	パーソナリティー	性格とは何か、その記述方法、測定方法、さまざまな性格の理論について、基本的事項を理解し、説明できる。 性格の類型論と特性論、 性格検査法	安部博史
14	臨床心理学	臨床心理学におけるさまざまな学派について、その違いとそれぞれの特色を理解し、説明できる。 科学者実践家モデルについて、基本的事項を理解し説明できる。	安部博史
15	まとめ	これまで学習した各分野における知見を総合的に関連づけ、身の回りの様々な現象をそれらに基づき分析し、必要であれば改善の方略を列挙できる。	安部博史

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート・ミニテスト20%、期末試験80%とする。

【教科書】

「脳から始めるこころの理解」（福村書店）

【参考書】

「心理学への招待[改訂版]」（サイエンス社）

【備考】

その他：各学生がすべての講義に出席することを前提に講義を進める。講義に欠席した場合には各自の責任において、配布資料の有無などを確認し、必要に応じて担当者に問い合わせるなどの必要な対応をとること。

【学修の準備】

予習：各回の「授業内容および学習課題」に挙げられているキーワードについて、教科書、配付資料、参考書、インターネットなどを利用して事前に予習を行う。事前学習には60～90分かかることを想定している。

復習：学習内容を自分の言葉でまとめる。教科書、配付資料、参考書の当該部分を精読し、講義中に触れられなかった内容の補完や講義内容との統合を行うこと（30～60分）。

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP1）生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

（DP3）保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。

（DP5）多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。

【実務経験】

国立大学附属病院精神科、臨床心理技術者、公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

精神科および発達障害者支援センターにおける実務経験を活かし、可能な限り具体的に基礎から応用に及ぶ教育内容と臨床場面との関連について言及する。